

# 主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	19123	中学校給食実施事業	室名	学校教育室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	会計	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	款	10:教育費
	施策の方向	05:時代に即した教育の推進	項目	03:中学校費
戦略プロジェクト	-	目	01:学校管理費	
事業予定期間	H 20 ~ H - 年度	主な根拠法令要綱等		

② 目的・概要	対象	亀山中学校及び中部中学校の生徒
	目的	希望する中学生への給食実施を通して、栄養バランスやカロリーを意識させながら「食」を自ら選択する力を育むとともに、心身の成長期における望ましい食習慣を身につけさせる。
概要		亀山中学校と中部中学校において、自宅からの弁当持参とデリバリー給食との選択制とし、そのデリバリー給食を外部委託する。

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	計画額	デリバリー方式による給食実施 ・年間実施回数 185回	デリバリー方式による給食実施 ・年間実施回数 185回	
		事業費	47,200千円	47,200千円
	予算額	国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
		一般財源	47,200千円	47,200千円
		事業費	43,889千円	44,084千円
	予算額	国庫支出金	0千円	
		県支出金	0千円	
地方債		0千円		
その他		0千円		
一般財源		43,889千円	44,084千円	
期間内総事業費(H27・H28)①		94,400千円	期間外事業費(H29以降)② -	
			総事業費 (①+②) -	

				平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)
①	名称	デリバリー給食の実施回数	活動	計画値	185	185
	補足	亀山中学校と中部中学校2校のデリバリー給食年間実施日数		単位	回	回
②	名称	デリバリー給食満足度	成果	計画値	70	70
	補足	亀山中学校及び中部中学校利用生徒の肯定的回答の割合		単位	%	%
③	名称			計画値		
	補足			単位		
④	名称			計画値		
	補足			単位		

事務事業評価シート

H28(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局
	19123	中学校給食実施事業	室名	学校教育室
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興	財	会計 01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの学びと健全育成	務	款 10:教育費
	施策の方向	05:時代に即した教育の推進	科	項 03:中学校費
戦略プロジェクト	-	目	目 01:学校管理費	

② 目的・概要	対象	亀山中学校及び中部中学校の生徒
	目的	希望する中学生への給食実施を通して、栄養バランスやカロリーを意識させながら「食」を自ら選択する力を育むとともに、心身の成長期における望ましい食習慣を身につけさせる。
概要	亀山中学校と中部中学校において、自宅からの弁当持参とデリバリー給食との選択制とし、そのデリバリー給食を外部委託する。	

		27年度	28年度
①	名称	デリバリー給食の実施回数	計画値 185
	補足	亀山中学校と中部中学校2校のデリバリー給食年間実施日数	実績値 183
			単位 回
②	名称	デリバリー給食満足度	計画値 70
	補足	亀山中学校及び中部中学校利用生徒の肯定的回答の割合	実績値 75
			単位 %
③	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
④	名称		計画値
	補足		実績値
			単位

年度計画				年度実績			
デリバリー方式による給食実施 ・年間実施回数 185回				デリバリー方式による給食実施 ・年間実施回数 177回  年間平均喫食率 平均35.56%(昨年度:平均36.56%) →学校別年平均 亀中:34.59% 中部中:36.67%			
④ 事業の計画・実績	事業費	計画額	予算額	人件費	総人件費 ①	4,394	平均給与額×③
		決算額	43,251		一般職員人件費 ②	4,394	
	国庫支出金	0	所要人員 ③	0.60			
	県支出金	0	臨時職員人件費 ④	0			
	地方債	0	受益者負担額 ⑤	0			
	その他	0	受益者負担率	0.0% ⑤ / ⑥			
	一般財源	47,200	44,084	43,251			
	再	翌年度への繰越額	0				
	掲	前年度からの繰越額	0	0			
		総人件費	①	4,394			
	総コスト	⑥	47,645				

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	総合判定
	・デリバリー通信を作成し、デリバリー給食に関するお知らせやお弁当作りに関する情報発信を行い、家庭における食育推進の啓発に努めることができた。(参考:学期に1回、年3回発行) ・各国のメニューを取り入れた「サミット給食」を実施し、生徒の食に関する関心を高める取組を図ることができた。(参考:「サミット給食」実施日における生徒の喫食率[平均] 38.1%)	<b>A</b>
		順調に進んだ
	【反省点・課題】	
	・デリバリー給食の喫食率が下がつつある。 ・学校給食検討委員会からの答申を受けて、教育委員会において、中学校における完全給食の実施が望ましいという方針が決定された。	
	【改善の方向性】	
	・生徒の嗜好や喫食状況について調査を行い、更なるメニュー等の改善を図る。また、これまで続けてきた食育に関する通信の発行や行事食等のメニューについては継続を図り、生徒の食に関する関心を高める取組を進めていく。 ・中学校における完全給食実施に向けて多面的な検討に着手する。	
	事業目的の妥当性: 適切	有効性: 適切
	最終評価確認者: 学校教育室長 西口 昌毅	